

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-082818
(43)Date of publication of application : 19.03.2003

(51)Int.Cl.

E04D 1/30
E04D 13/18
H01L 31/042

(21)Application number : 2001-275858

(22)Date of filing : 12.09.2001

(71)Applicant : MSK CORP

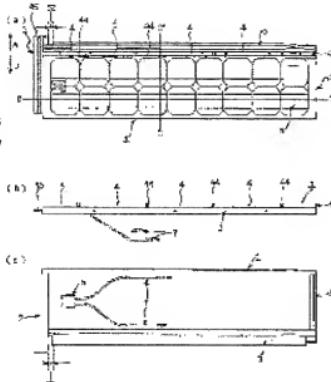
(72)Inventor : AKIYAMA MITSUO
WAKABAYASHI KENGO

(54) SOLAR BATTERY CONNECTABLE WITH TILE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a solar battery enabling a connection with a tile, in which execution as a roofing material, the connection with the tile and one-tile exchange are facilitated and which has excellent waterproofness.

SOLUTION: In a solar battery module 1, the solar batteries 5 with a plurality of solar cells such as a sash for a window pane are installed into a frame 1 as a rectangular frame form. A detachable elastic waterproofing material 44 and fixtures 3 and 4 are mounted in parallel with the longitudinal direction of the ridge side on the ridge side as the long-side one end side of the frame 2. When the solar battery modules are connected mutually, one arbitrary solar battery module requiring exchange can be removed easily without taking away all the solar battery modules secured on a roof by detaching screws from the eaves-edge direction when exchange is needed by reason of the generation or the like of trouble in the solar battery modules by using the detachable fixtures 3 and 4.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

(51) Int.Cl.⁷
E 04 D 1/30
13/18
H 01 L 31/042

識別記号
6 0 3

F I
E 04 D 1/30
13/18
H 01 L 31/04

テマゴト⁷ (参考)
6 0 3 H 2 E 1 0 8
5 F 0 5 1
R

審査請求 未請求 請求項の数 8 O.L. (全 12 頁)

(21)出願番号 特願2001-275858(P2001-275858)

(22)出願日 平成13年9月12日 (2001.9.12)

(71)出願人 592089906
株式会社エム・エス・ケイ

東京都新宿区西新宿1丁目24番1号 エス
テック情報ビル19F

(72)発明者 秋山 满雄
東京都新宿区西新宿1-24-1 エステッ
ク情報ビル19F 株式会社エム・エス・ケ
イ内

(74)代理人 100091225
弁理士 仲野 均 (外1名)

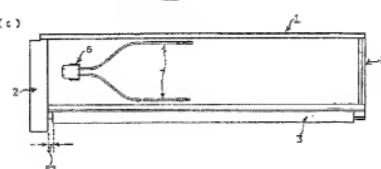
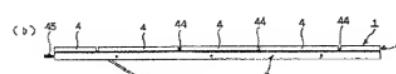
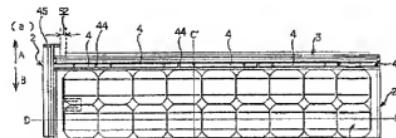
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 瓦と取り合いのできる太陽電池

(57)【要約】

【課題】 屋根材としての施工、瓦との取り合いおよび一枚交換が容易であり、防水性に優れた瓦と取り合いのできる太陽電池を提供すること。

【解決手段】 太陽電池モジュール1は、長方形形状の枠型であるフレーム2内に窓ガラスのサッシのように複数の太陽電池セル5を有する太陽電池5を装着している。フレーム2の長辺一端側である棟側には、この長手方向に並行して脱着可能な弹性防水材44および固定金具3、4が設置されている。太陽電池モジュール1は、この脱着可能な固定金具3、4を利用するにより、太陽電池モジュール1に不具合が発生したなどの理由から交換が必要となったとき、軒先方向からのビスを取り外すことで屋根に設置してある全ての太陽電池モジュールを外すことなく、交換が必要な任意の太陽電池モジュール1枚を容易に取り外すことができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 長方形形状の中空枠型であり、当該中空枠型内に太陽電池が押着されている瓦と取り合いのできる太陽電池において、前記中空枠型の長辺一端側の側面が下方に延びた側面部と、前記側面部の下端を前記中空枠型の長辺他端側向きに折り曲げることにより形成された折曲部と、を有し、前記中空枠型の長辺他端側向きに開放している断面がコの字形の固定手段と、前記側面部および前記中空枠型の長辺一端側の底面部と係合される係合部と、前記係合部を下方に折り曲げることにより形成された支部と、前記支部を前記長辺一端側向きに折り曲げることにより形成された固定部と、を有し、前記中空枠型の長辺一端側向きに開放している断面が逆ニの字形である第1の係合手段と、前記中空枠型の長辺一端側の上面部と平行な平行部と、前記平行部を垂直上方に折り曲げることにより形成された垂直部と、を有し、前記固定手段が形成されている前記中空枠型の長辺一端側の上面部に前記平行部が固定可能な断面がし字形である第2の係合手段と、前記中空枠型の長辺他端側の側面が下方に延びた側面部と、前記側面部の下端が前記固定手段が形成されている長辺一端側向きに折り曲げられている屈曲部とを有している接合手段と、を備え、前記第1の係合手段の係合部は、前記側面部が前記中空枠型の長辺一端側の底面部に対して形成する角度と同じ角度で形成されており、前記第1の係合手段は、前記係合部の角度と前記側面部および前記中空枠型の長辺一端側の底面部によって形成される角度を合わせることにより、前記固定手段に装着されることを特徴とする瓦と取り合いのできる太陽電池。

【請求項2】 前記中空枠型の短辺一端側の底面部に形成されており、前記底面部に対して垂直下方に突出している突出部を少なくとも1つ以上有する第1の短辺接合手段と、前記中空枠型の短辺他端側の側面が下方に延びた側面部と、前記側面部に対して垂直に接合され、前記短辺他端側の底面部に向かって短手方向に沿って上方に突出している複数の突出面を有する接合部と、前記短辺他端側の側面部に対して直角をなす止部と、を有する第2の短辺接合手段と、をさらに備えたことを特徴とする請求項1記載の瓦と取り合いのできる太陽電池。

【請求項3】 前記第2の係合手段は、前記長辺一端側の上面部と平行な平行部を直角に折り曲げることにより形成された垂直部に対して直角をなす回転防止部を前記中空枠型の長辺他端側向きに備えていることを特徴とする請求項1または請求項2記載の瓦と取り合いのできる太陽電池。

【請求項4】 前記中空枠型の長辺一端側の上面部と前記第2の係合手段との間に配置される弾性手段をさらに

備えたことを特徴とする請求項1、請求項2、請求項3のうちいずれか1に記載の瓦と取り合いのできる太陽電池。

【請求項5】 前記第1の係合手段は、前記固定手段から剥脱可能に装着されていることを特徴とする請求項1、請求項2、請求項3、請求項4のうちいずれか1に記載の瓦と取り合いのできる太陽電池。

【請求項6】 前記第1の係合手段の長手方向の長さは、前記固定手段の長手方向の長さよりも短く、前記固定手段に前記第1の係合手段が嵌着された場合、前記中空枠型の長辺端部に隙間が形成されることを特徴とする請求項1、請求項2、請求項3、請求項4、請求項5のうちいずれか1に記載の記載の瓦と取り合いのできる太陽電池。

【請求項7】 前記第2の係合手段の長さは、前記中空枠型の長辺の長さが所定間隔に分割された長さであり、前記所定間隔に分割された所定位置において前記第2の係合手段を前記中空枠型の長辺一端側の上面部から取り外し可能であることを特徴とする請求項1、請求項2、請求項3、請求項4、請求項5、請求項6のうちいずれか1に記載の瓦と取り合いのできる太陽電池。

【請求項8】 前記接合手段の側面部および屈曲部と係合される屈曲係合部と、前記側面部係合部を前記中空枠型の長辺一端側に折り曲げることにより形成される軸先側係合部と、を有する第3の固定手段をさらに備え、前記接合手段が軸先側の瓦と接合される場合、前記第3の固定手段の前記屈曲係合部は前記接合手段と係合され、前記軸先側係合部は前記瓦と係合されることを特徴とする請求項1、請求項2、請求項3、請求項4、請求項5、請求項6、請求項7のうちいずれか1に記載の瓦と取り合いのできる太陽電池。

【請求項9】 前記側面部係合部と、前記側面部係合部を前記中空枠型の長辺一端側に折り曲げることにより形成される軸先側係合部と、を有する第3の固定手段をさらに備え、前記接合手段が軸先側の瓦と接合される場合、前記第3の固定手段の前記屈曲係合部は前記接合手段と係合され、前記軸先側係合部は前記瓦と係合されることを特徴とする請求項1、請求項2、請求項3、請求項4、請求項5、請求項6、請求項7のうちいずれか1に記載の瓦と取り合いのできる太陽電池。

【発明の詳細な説明】

【00001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、瓦と一体化した屋根材として利用することができる瓦と取り合いのできる太陽電池に関する。

【00002】

【従来の技術】 近年、地球環境問題、特に地球温暖化に対する世界的な対応が求められてきており、この地球温暖化の主な原因となる二酸化炭素を発生させずにエネルギーを創る太陽電池が広く利用されている。この太陽電池は、太陽の光エネルギーを吸収して電気に変換するエネルギー変換器であり、日光が太陽電池に入射した時に光の日射強度に比例して発電を行うものである。ところで、環境問題に対する対策として、太陽電池を複数集合させて太陽電池パネルとして屋根上に配置させ、発電された電気(直流)をパワーコンディショナーに通すことで電力会社からの電気(交流)と同様に屋根上に配置する太陽電池や太陽電池パネル(以下、太陽電池、太陽電池パ

ネルの総称として太陽電池モジュールという)として、従来から様々な太陽電池モジュールが提案されている。これら太陽電池モジュールを屋根に設置する方法としては、屋根材や瓦の上に太陽電池モジュールを設置するための架台を設け、この架台上に固定する方法がある。また、太陽電池を保持枠に取り付け、太陽電池モジュールとして設置する方法、太陽電池モジュール自体を屋根材として用いて瓦と同様に屋根上に葺く方法などがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、複数の太陽電池を一体化した太陽電池モジュールでは、太陽電池モジュールの設置後に不具合が発生したりすることがある。このように不具合が生じた場合に、不具合が発生した太陽電池モジュール部分のみの交換というような一枚交換をすることは難しかった。また、太陽電池モジュールを屋根材や瓦の上に固定する際、太陽電池モジュールを固定するための架台を設置するためには屋根の野地板にビスなどの固定部材を打ち込む必要がある。このビスを打ち込むことにより野地板に空いた穴から雨水や雪などが吹き込んだり、しみ込んだりしてしまい、防水性能の問題が生じてしまう。さらに、太陽電池を保持枠に取り付け、瓦との取り合いをする太陽電池モジュールでは、千鳥状に葺くことができなかつたために上下の自地が補つてしまい、千鳥状に葺くより防水性能に優れていなく、妻側での瓦との取り合いでは金物を使用していった。

【0004】一方、太陽電池モジュール自体を屋根材として瓦と同様に屋根上に葺く場合、太陽電池モジュールと瓦の面の高さやサイズに違いがある場合、次にのる瓦にがたつきが生じ、太陽電池モジュールと瓦との取り合い(太陽電池モジュールと瓦を取り付けて接合、固定すること)がうまくいかないことになる。また、屋根の野地板に直接太陽電池モジュールを取り付けする場合、太陽電池モジュールや瓦のサイズが異なると凸凹が生じ、太陽電池モジュールと瓦との取り合いが同様にうまくいかないことになる。このように太陽電池モジュールと瓦の取り合いがうまくいかないことにより、太陽電池モジュールと瓦との間に隙間が生じると、この隙間から雨水や雪などが吹き込んだり、しみ込んだりしてしまう恐れが生じる。太陽電池モジュールから作りだされた電気を何十枚かのブロックにするため太陽電池モジュール一枚一枚を結線する必要があるが、上下の太陽電池モジュール同士の結線は瓦棟をカットし、このカットした部分に配線を通すことで結線をしていた。また、瓦と同様に屋根材として太陽電池モジュールを葺く場合、一枚一枚の太陽電池モジュールを葺く際に、太陽電池モジュール同士の配線が必要になる。従来では、上下に設置された太陽電池モジュール間の配線を行うために野地板上の瓦棟をカットする必要があり、特に太陽電池モジュールの上下配線の施工が困難であった。

【0005】そこで、本発明は、屋根材としての施工、瓦との取り合いおよび一枚交換が容易であり、防水性に優れた瓦と取り合いのできる太陽電池を提供することを目的とする。また、本発明は、太陽電池を保持枠に取り付け、瓦と取り合いのできる太陽電池モジュールであり、瓦の固定方法と同等に施工ができ、瓦の葺き方と同じように千鳥葺きができるようにして防水性を向上させる瓦と取り合いのできる太陽電池を提供することを目的とする。また、本発明は、上下の太陽電池モジュールの結線を容易にし、作業効率を向上させる瓦と取り合いのできる太陽電池を提供することを目的とする。さらに、本発明は、屋根材としての施工、瓦との取り合い、一枚交換、瓦と同様の葺き方が可能、防水性能の向上、上下の結線が容易であるなどの特徴を有し、メンテナンスも作業者が容易に行うことができる構造である瓦と取り合いのできる太陽電池を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の瓦と取り合いのできる太陽電池によると、長方形形状の中空枠型であり、当該中空枠型内に太陽電池が挿されている瓦と取り合いのできる太陽電池において、前記中空枠型の長辺一端側の側面が下方に延びた側面部と、前記側面部の下端を前記中空枠型の長辺他端側向きに折り曲げることにより形成された折曲部と、を有し、前記中空枠型の長辺他端側向きに開放している断面がコの字形の固定手段と、前記側面部および前記中空枠型の長辺一端側の底部と係合される係合部と、前記係合部を下方に折り曲げることにより形成された支部と、前記支部を前記長辺一端側向きに折り曲げることにより形成された固定部と、を有し、前記中空枠型の長辺一端側向きに開放している断面が逆コの字形である第1の係合手段と、前記中空枠型の長辺一端側の上面部と平行な平行部と、前記平行面を垂直上方に折り曲げることにより形成された垂直部と、を有し、前記固定手段が形成されている前記中空枠型の長辺一端側の上面部に前記平行部が固定可能な断面がL字形である第2の係合手段と、前記中空枠型の長辺他端側の側面が下方に延びた側面部と、前記側面部の下端が前記固定手段が形成されている長辺一端側向きに折り曲げられている屈曲部とを有している接合手段と、を備え、前記第1の係合手段の係合部は、前記側面部が前記中空枠型の長辺一端側の底部部に対して形成する角度と同じ角度で形成されており、前記第1の係合手段は、前記係合部の角度と前記側面部および前記中空枠型の長辺一端側の底部部によって形成される角度を合わせることにより、前記固定手段に装着されるので、屋根としての施工および瓦との取り合いが容易であり、防水性に優れた太陽電池モジュールを提供することができる。

【0007】本発明の瓦と取り合いのできる太陽電池において、前記中空枠型の短辺一端側の底部部に形成されており、前記底部部に対して垂直下方に突出している突

出部を少なくとも1つ以上有する第1の短辺接合手段と、前記中空枠型の短辺他端側の側面が下方に延びた側面部と、前記側面部に対して垂直に接合され、前記短辺他端側の底面部に向かって短手方向に沿って上方に突出している複数の突出面を有する接合部と、前記短辺他端側の側面部に対して直角をなす係止部と、を有する第2の短辺接合手段と、をさらに備えるので、太陽電池モジュール同士を横に並べて接合する際、目地部からの雨水の水路が狭くなり、瓦の下に入り込む水量を抑えることができ、屋根の野地板やルーフィング面に雨水が流れ出すのを防ぐことができる。

【0008】本発明の瓦と取り合いのできる太陽電池において、前記第2の係合手段は、前記長辺一端側の上面部と平行な平行部を直角に折り曲げることにより形成された垂直部に対して直角をなす回転防止部を前記中空枠型の長辺他端側向きに備えているので軒先側方向からのビス止めにより太陽電池モジュールを固定することができ、太陽電池モジュールの軒先側と別の太陽電池モジュールの棟側を固定する際に、棟側に固定される太陽電池モジュールの回転を防止し、容易に太陽電池モジュール同士の施工を行うことができる。また、本発明の瓦と取り合いのできる太陽電池において、前記中空枠型の長辺一端側の上面部と前記第2の係合手段との間に配置される弾性手段をさらに備えるので、瓦と太陽電池モジュールとを弾性的に接合することができ、太陽電池モジュールと瓦とのがたつきを防止し、さらには防水性能も向上することができる。

【0009】本発明の瓦と取り合いのできる太陽電池によると、前記第1の係合手段の長手方向の長さは、前記固定手段の長手方向の長さよりも短く、前記固定手段に前記第1の係合手段が嵌着された場合、前記中空枠型の長辺端部に隙間が形成されるので、この隙間を利用することにより、瓦棟に切り込みを入れることなく、太陽電池モジュールの裏面に設置されている端子ボックスからの配線を屋根の上下（棟側および軒先側方向）に通すことができる。本発明の瓦と取り合いのできる太陽電池において、前記第1の係合手段は、前記固定手段から剥脱可能に装着されているので、不具合が発生したなどの理由から交換が必要となったとき、交換が必要な太陽電池モジュール1枚のみを容易に取り外すことができる。

【0010】本発明の瓦と取り合いのできる太陽電池によると、前記第2の係合手段の長さは、前記中空枠型の長辺の長さが所定間隔に分割された長さであり、前記所定間隔に分割された所定位臓において前記第2の係合手段を前記中空枠型の長辺一端側の上面部から取り外し可能となっているので、例えば、屋根材として太陽電池モジュールを千鳥状に葺く場合、瓦との取り合い（接合）を行う部分となる固定金具を取り外すことにより、容易に太陽電池モジュールと瓦との取り合いをすることができる。本発明の瓦と取り合いのできる太陽電池による

と、前記接合手段の側面部および庇部と係合される庇曲係合部と、前記側面係合部を前記中空枠型の長辺一端側に折り曲げることにより形成される軒先側係合部と、を有する第3の固定手段をさらに備え、前記接合手段が軒先側の瓦と接合される場合、前記第3の固定手段の前記庇曲係合部は前記接合手段と係合され、前記軒先側係合部は前記瓦と係合されるので、瓦と太陽電池モジュールの間に隙間が生じないように取り合いすることができ、雨水が吹き込むのを防止することができる。

10 【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の好適な実施の形態について図1ないし図7を参照して詳細に説明する。図1は、本実施の形態に係る太陽電池モジュールを示した図である。なお、図1（a）は、太陽電池モジュールの平面図を、図1（b）は、太陽電池モジュールの正面図を、図1（c）は、太陽電池モジュールの裏面図を示している。また、図2（a）は、図1のC-C'縦断面図、図2（b）は図1のD-D'横断面図である。図3は、本実施の形態の太陽電池モジュールを設置した屋根を示した図である。なお、図3において斜線部分が屋根材として設置されている太陽電池モジュールであるとする。なお、本実施の形態では、瓦と取り合いのできる太陽電池とは、太陽電池セルおよび当該太陽電池セルを有するフレーム（枠）およびその他の係合部や各部品を全て含めた太陽電池モジュールとして説明する。また、各図において矢印A側を棟側、矢印B側を軒先側として説明する。太陽電池モジュール1は、長方形形状の枠型であるフレーム2内に窓ガラスのサッシのように複数の太陽電池セルを有する太陽電池5を装着している。この太陽電池5の各太陽電池セル間に充填材が充填されている（図1（a）参照）。また、太陽電池モジュール1の裏面には、太陽電池5からの電力を外部に引き出す端子ボックス6および配線7が設置されている（図1（c）参照）。

【0012】フレーム2は、長辺が約1224mm、短辺が約327mmの長方形形状の耐熱アルミニウム合金の中空枠型であり、この枠内に太陽電池5を装填することができるよう、約7.7mmの厚み幅51がフレーム2の上面部と底面部の間に形成されている（図2（a）参照）。また、太陽電池5の厚みは、ガラス、充填材などを含めて約5mm程度である。また、フレーム2の長辺一端側である棟側（矢印A側）には、この長手方向に平行して長辺上面部に弾性防水材44および固定金具3、4が設置されている。固定金具3、4によって図3に示すように太陽電池モジュールと瓦の取り合い、太陽電池モジュール同士の取り合いなどができるようになっている。一方、フレーム2の長辺他端側である軒先側（矢印B側）は、長手方向に図2（a）に示したような立ち下がり部26と係合部26aが設けられている。この立ち下がり部26および係合部26aは、軒先側に固

定される別の太陽電池モジュールの棟側に設置されている固定金具4と接合する場合や、軒先側に固定される瓦と接合する場合に使用されるようになっている。

【0013】ここで、図2(a)、(b)を参照しながら棟側および軒先側のフレーム2の構成および固定金具3、4の構成について説明する。中空枠型に形成されたフレーム2の長辺一端側である棟側には、図2(a)に示すような棟側側面が上方に延びた立ち上がり部21、棟側側面が下方に延びた立ち下がり部22、この立ち下がり部22からフレーム2の軒先側方向に向かって棟側底面部24に対して平行となるように折り曲げられて形成されている折曲部23が形成されている。また、図示のようにフレーム2の棟側は、棟側底面部24、立ち下がり部22および折曲部23により断面がコの字形に形成され、軒先側が開放した空間部234(点線で囲まれた部分)を有している。固定金具3は、一端側が開放されている断面が逆コの字形の耐蝕アルミニウム合金の金物であり、フレーム2の棟側底面部24と接する接合部31、立ち下がり部22と接合部31によって形成される角度と同じ角度になるように折り曲げられ、棟側底面部24および立ち下がり部22と係合される係合部31a、接合部31に対して垂直方向に形成された支部32および支部32から接合部31と平行するように(図中では棟側向き)形成された固定部33を備えている。

【0014】この固定金具3の開放されている一端側をフレーム2の棟側底面部24、立ち下がり部22および折曲部23によって形成される空間部234内に嵌め合わせることにより、フレーム2の棟側に固定金具3を装着することができる。なお、固定金具3の固定部33は、太陽電池モジュール1を屋根の瓦棟および野地板に固定する際に使用することができる。また、太陽電池モジュール1を屋根材として設置する際に使用される固定金具3は、長手方向(フレーム2の長辺)よりも少し短い長さとなっている(図1(a)、(c)参照)。これにより、固定金具3がフレーム2の長手方向に沿って空間部234内に装着された場合、フレーム2の棟側の長辺端部と固定金具3の端部との間に隙間52が形成される。この隙間52は、太陽電池モジュール1の裏面に設置されている端子ボックス6からの配線7の通過路として利用することができる。

【0015】固定金具4は、断面がL字形状の耐蝕アルミニウム合金の金物であり、本実施の形態では一例として瓦1.5枚分の長さ単位(約459mm)または瓦0.5枚分の長さ単位(約153mm)のものを使用している(図1(a)、(b)参照)。なお、固定金具4の長さ単位は、瓦1.5枚分または瓦0.5枚分の長さに限られるものではなく、適宜の長さ単位を形成することができ、この所定の長さの固定金具4をコマとして使用することができるようにになっている。この固定金具4

は、フレーム2の棟側上面部25上の長手方向に設置されているエアパッキンである弾性防水材44上に棟側上面部25と平行となるように接合される平行部41(L字の底面)、平行部41と直角をなすように垂直上方に折り曲げられて形成された立ち上がり部42(L字の垂直部)および立ち上がり部42の上端寄りに当該立ち上がり部42と直角をなすように形成された回転防止部42aを備えている。本実施の形態では一例として、平行部41は約15mmであり、立ち上がり部42は約18mmとなっている。また、立ち上がり部42に形成された回転防止部42aは、別の太陽電池モジュール1が棟側に固定される場合(図3参照)、軒先方向からのビス止めによる太陽電池モジュール1の回転を防止する役目を果たすことができる。固定金具4は、回転防止部42aがフレーム2の軒先側に向かうように、すなわち立ち上がり部42がフレーム2の棟側上面部25と直角をなすように弾性防水材44上に設置されており、ビス13によって平行部41と棟側上面部25とが弾性防水材44を挟んで接合されることにより、フレーム2に固定される。この固定金具4がフレーム2の棟側上面部25に接合される際、棟側上面部25に形成されている突起部25aは、固定金具4が接合の際に動かないように固定するストッパーの役目を果たしている。

【0016】固定金具4は、図1(b)に示したように、フレーム2の長辺両端側には瓦0.5枚分の長さ単位のものが接合され、瓦1.5枚分の長さ単位のものは、瓦0.5枚分の長さ単位のもの間に挟まれるように所定枚数分が接合されている。なお、本実施の形態では一例として、フレーム2の長辺には瓦4枚分に相当する分の固定金具4が固定されている。このように太陽電池モジュール1は、固定金具4をビス13により瓦0.5枚分と瓦1.5枚分という単位で、フレーム2の長辺一端側の棟側に所定枚数分が接合されることにより、太陽電池モジュール1および瓦を図3のように千鳥状で交互に葺くことができる。例えば、太陽電池モジュール1の棟側において、途中から瓦を太陽電池モジュール1に対して千鳥状に葺きたい場合、瓦との取り合い(接合)を行う部分となる太陽電池モジュール1側フレーム2と固定金具4とを接合しているビス13を取り外すことにより、任意の位置で太陽電池モジュール1と瓦とを取り合いでいることができる。

【0017】次に、図2(b)を参照しながら右ケラバ側(棟側および軒先側以外の家の両側面側をいう)のフレーム2の構成について説明する。フレーム2の短辺一端側である右ケラバ側(D'側)は、断面がコの字形状であり、太陽電池5をフレーム2内に装填することができるよう、フレーム2の中空枠型の短手方向上面部および底面部の間に、約7.7mmの厚み幅51が形成されている。また、第1の短辺接合手段であるフレーム2の短辺一端側の底面部27には、底面部27に対して

垂直下方に突出している雨水路防止としての突出部27a、27bとが形成されている。突出部27a、27bは、短辺一端側底面部に対して垂直下方に突出しており、特に、突出部27aは、フレーム2の底面部27を短辺他端側に向けて折り曲げた底面部に形成されている。また、突出部27aと突出部27bの間隔は適宜変更が可能となっている。また、太陽電池モジュール1cのフレーム2の立ち上がり部22、棟側上面部25に囲まれた部分に隙間261(点線で囲まれた部分)が形成される。この隙間261に溜まった雨水は、太陽電池モジュール1cと取り合いでいる別の太陽電池モジュールのフレームへと流れようになっている。

【0018】同様に、フレーム2の短辺他端側である左ケラバ側(D側)は、断面が逆コの字形状であり、フレーム2内に装填することができるように、棟側および軒先側と同じ約7.7mmの厚み幅51が上面部と底面部の間に形成されている。また、左右の短辺の長さは異なっており、一方の短辺の長さが他方よりも約43mm程長く、この長い分は棟側に出るよう形成されている。棟側に出るよう形成された短辺の先端部には、図1(a)に示したように止水材45が取り付けられている。また、フレーム2の側面部28は、太陽電池5に対して垂直下方に延びており、この延びた側面部28には、太陽電池5に平行する面を形成するように、すなわち側面部28に対して垂直に雨水路防止のための雨水路防止部29が接合されている。このように、中空枠型の短辺他端側の側面部28は下方に延びており、この下方に延びた側面部28の下端には短辺他端側の底面に向かって短手方向に沿って垂直上方に突出している突出部29a、29b、29cを有する水路防止部29が形成されている。また、側面部28には、側面部28と直角をなすように形成された係止部28aが設けられている。突出部29a、29cは、水路防止部29の両端に設けられており、雨水などが流れ出さないような高さとなっている。

【0019】このように、フレーム2の短辺側の底面部27に突出部27a、27b、側面部28に係止部28a、水路防止部29に突出部29a、29b、29cを形成したことにより、目地部からの雨水の水路が狭くなり、水路防止部29および瓦の下に入り込む水量を抑えることができる。なお、係止部28aおよび突出部29a、29b、29cは、図3のように瓦や別の太陽電池モジュール1が横に並べて取り合いでいる際に、別の太陽電池モジュールのフレーム2の突出部27a、27bと組み合わされることにより雨水路防止の役目を果たすことができるようになっている。また、図示のように、側面部28、係止部28a、水路防止部29および突出部29bによって囲まれた隙間290(点線で囲まれた部分)が形成されている。さらに、側面部28、水路防止部29および突出部29aによって囲まれた隙間29

1(点線で囲まれた部分)が形成されている。棟側の太陽電池モジュール1の隙間261に溜まった雨水が軒先側の太陽電池モジュール1のフレーム2棟側から見た場合の左右両方の隙間290、291に流れいくようになっている。

【0020】次に、実際に太陽電池モジュール1を屋根材として設置した実施の形態について説明する。図4は、図3のE-E'継断面を示した斜視図である。また、図5(a)～(c)は、図4のS部、T部、U部をそれぞれ拡大した図である。なお、ここでは一例として、3枚の太陽電池モジュール1a、1b、1cが棟側に屋根材として葺かれているものとして説明する。図4に示したように屋根の野地板91(厚さ約9mm)上にルーフィング92および縦棟93が形成されており、この縦棟93上に太陽電池モジュール1aや瓦8を固定する瓦棟9が所定間隔で設置されている。また、瓦棟9とルーフィング具92または縦棟93の間に、防水材としてのゴムシート94が設置されている。このゴムシート94は、ビスによって太陽電池モジュール1と瓦8、または太陽電池モジュール1同士を固定する際、野地板91に形成されるビス穴からルーフィング92上を流れてきた水がしみ込むことを防止することができるようになっている。なお、本実施の形態では、防水材の一例としてゴムシートを利用しているが、これに限られるものではなく、防水機能を有する生地のものであればよい。

【0021】ここで、図5(a)～(c)を参照しながら軒先側での太陽電池モジュール1aと瓦8aの取り合い、太陽電池モジュール1bおよび太陽電池モジュール1cの取り合い、棟側での太陽電池モジュール1cと瓦8bの取り合いについて説明する。なお、説明上、図5(a)～(c)の各太陽電池モジュール1a、1b、1cにおいて、図1および図2で説明したのと同様の部分については同じ番号を使用するものとする。図5

(a)は、図4のS部を拡大した図であり、瓦8aと固定されている太陽電池モジュール1aの軒先側接合部分を示している。まず、太陽電池モジュール1aと瓦8aを軒先側において取り合いでいる場合、軒先方向からビス10によって軒先固定用金具12の接合部12aがフレーム2の軒先側の立ち下がり部26と接するように軒先固定用金具12を係合する。この軒先固定用金具12は、軒先側のフレーム2と同様に長手方向に設置され、立ち下がり部26と接合される接合部12a、ビス11によって瓦8aと固定される固定部12b、立ち下がり部26に形成されている係合部26aに対応して形成されたくぼみ12e、突出部12c、12dを備えている。突出部12c、12dは、固定部12b上に形成されている。軒先側の瓦と接合される場合、接合部12aは、くぼみ12eが立ち下がり部26の突出部26aに接する部分に対応するように立ち下がり部26と接合される。そして、固定部12bは、この立ち下がり部26

に接合された接合部12aに対して垂直方向に形成されている。

【0022】太陽電池モジュール1aの軒先側において瓦8aと取り合いを行う場合、図示のように太陽電池モジュール1aの軒先側と瓦8aの棟側は、太陽電池モジュール1の短手方向のフレーム2と瓦8の端縁とが一致するように重ね合わされる。このように太陽電池モジュール1aと瓦8aは、重ね合わされた状態で接合される。この重ね合わされた部分において、ビス11によって軒先固定用金具12は、瓦8aのビス穴を利用して瓦棟9および野地板91に固定されるようになっている。また、上述したように瓦棟9とルーフィング92または縦棟93の間に防水用のゴムシート94が設置されているので、太陽電池モジュール1a、瓦8aおよび瓦棟9を固定する際にビス11によって野地板91およびルーフィング92に形成されるビス穴から、ルーフィング92上を流れてきた水がしみ込まないようにすることができる。このように軒先側で太陽電池モジュール1aと瓦8aの取り合いを行う場合、軒先固定用金具12を軒先方向からビス10によって固定しているので、太陽電池モジュール1aに不具合が発生したなどの理由から交換が必要となったとき、軒先方向からビス10を取り外すことにより、交換が必要な太陽電池モジュール1枚のみを容易に取り外すことができる。また、軒先固定用金具12をフレーム2の立ち下がり部26に固定することにより、瓦8aと太陽電池モジュール1aの間に隙間が生じないように取り合いすることができ、雨水が吹き込むのを防止することができる。

【0023】図5(b)は、図4のU部を拡大した図であり、太陽電池モジュール1bと太陽電池モジュール1cの接合部分を示している。太陽電池モジュール1bのフレーム2の棟側の棟側底部面24、立ち下がり部22および折曲部23により形成されている空間部234に嵌合されている固定金具3は、ビス15によって固定部33が瓦棟9および野地板91に固定されている。これにより、太陽電池モジュール1bは、ビス15によって固定金具3を介して瓦棟9および野地板91に固定されていることになる。太陽電池モジュール1bと太陽電池モジュール1cの取り合いを行う場合、図示のように瓦棟9および野地板91に固定されている太陽電池モジュール1bのフレーム2の棟側上面部25上にビス13により接合されている固定金具4と、太陽電池モジュール1cのフレーム2の軒先側の立ち下がり部26とを、軒先方向からのビス14によって接合する。これにより、瓦棟9および野地板91に固定された太陽電池モジュール1bに太陽電池モジュール1cを固定することができるようになっている。

【0024】このように太陽電池モジュール1bに接合されている固定金具4の立ち上がり部41には突出部42aが形成されているので、太陽電池モジュール1cの

立ち下がり部26と太陽電池モジュール1bの固定金具4を固定する際の太陽電池モジュール1cの回転を防止することができ、容易に太陽電池モジュール1同士(ここでは、太陽電池モジュール1bと太陽電池モジュール1c)の施工を行うことができる。このように、固定金具4を利用して軒先方向からのビス止めによって太陽電池モジュール同士を接合することができるので、軒先方向からビス14を取り外すことにより、屋根に設置してある全ての太陽電池モジュールを外すことなく、交換が必要な任意の太陽電池モジュール1枚のみを容易に取り外すことができる。また、ビス15によって太陽電池モジュール1bのフレーム2の空間部234に嵌合される固定金具3の固定部33の部分を瓦棟9上において野地板91および瓦棟9に取り付けるので、瓦棟9のサイズに関係なく太陽電池モジュール1bを屋根材として葺くことができる。このように固定金具3の固定部33を使用することにより、太陽電池モジュール1bを直接屋根の縦棟93およびルーフィング92に取り付けることによる設置面の凹凸差を防止することができる。太陽電池モジュール1bを固定金具3の固定部33を介して瓦棟9上で瓦棟9および野地板91に取り付けることができるので、どのようなサイズの瓦棟9にも対応させて設置することができる。

【0025】また、太陽電池モジュール1bのフレーム2の棟側上面部25に形成されている突起部25aがストッパーの役目を果たすことにより、ビス14による軒先方向から太陽電池モジュール1bの固定金具4に太陽電池モジュール1cを固定することができるようになっている。また、太陽電池モジュール1bの固定金具3は、フレーム2の棟側の棟側底部面24、立ち下がり部22および折曲部23により形成される空間部234に嵌合するようとしたので、フレーム2と固定金具3は挿脱可能(取り外し可能)となっている。これにより、太陽電池モジュール1cに不具合が発生したなどの理由から交換が必要となったとき、軒先方向からビス14を取り外すことにより、屋根に設置してある全ての太陽電池モジュールを外すことなく、交換が必要な任意の太陽電池モジュール1枚のみを容易に取り外すことができる。なお、上述したように太陽電池モジュール1bが固定されている瓦棟9と縦棟93またはルーフィング92の間に防水用のゴムシート94が設置されているので、太陽電池モジュール1bを固定する際にビス15によって野地板91およびルーフィング92上を流れてきた水がしみ込まないようにすることができる。

【0026】図5(c)は、図4のU部を拡大した図であり、太陽電池モジュール1cと瓦8bの棟側接合部分を示している。太陽電池モジュール1cのフレーム2の棟側に形成されている空間部234に嵌合されている固定金具3は、ビス16によって固定部33が瓦棟9上を

介して野地板91に固定されている。これにより、太陽電池モジュール1cは、ビス16によって固定金具3を介して瓦棟9上を介して瓦棟9および野地板91に固定されていることになる。太陽電池モジュール1cと瓦8bの取り合いを行う場合、太陽電池モジュール1cの棟側と瓦8bの軒先側が図示のように重ね合わされる。瓦8bが設置されるフレーム2の棟側上面部25上には、弾性防水材44が取り付けられているので、瓦8bと太陽電池モジュール1cとを弾性に接合することができる。これにより、太陽電池モジュール1cと瓦8bとのがたつきを防止することができ、防水性能も向上することができる。また、上述したように瓦棟9と継棟93またはルーフィング92の間にには防水用のゴムシート94が設置されているので、太陽電池モジュール1cを瓦棟9に固定する際にビス11によって形成されるビス穴から、ルーフィング92上を流れてきた水がしみ込まないようになることができる。

【0027】図6は、図3のF-F'横断面を示した図である。また、図7(a)～(c)は、図6のX部、Y部、Z部をそれぞれ拡大した図である。なお、ここでは一例として、2枚の太陽電池モジュール1c、1dが横に屋根材として葺かれているものとして説明する。ここで、図7(a)～(c)を参照しながら左ケラバ側(図3中、F'側)での瓦8dと太陽電池モジュール1cの取り合い、太陽電池モジュール1cおよび太陽電池モジュール1dの取り合い、右ケラバ側(図3中、F'側)での太陽電池モジュール1dと瓦8eの取り合いについて説明する。なお、説明上、図7(a)～(c)の各太陽電池モジュール1c、1dにおいて、図1および図2で説明したものと同様の部分については同じ番号を使用するものとする。図6に示したように、固定金具4は、瓦0.5枚分と瓦1.5枚分という単位で、コマとしてフレーム2の長辺一側側の棟側に接合されているので、任意の位置の固定金具4を外すことにより、太陽電池モジュール1と瓦を千鳥状で交互に葺くことができる。

【0028】図7(a)は、図6のX部を拡大した図であり、瓦8dと固定されている太陽電池モジュール1cのケラバ側接合部分を示している。なお、X部では、瓦8d側の固定金具4が外されている太陽電池モジュール1cの場合(図6の黒矢印部分参照)について示してある。図7(a)に示したように、瓦8dの棟側部分に弾性防水材445を取り付ける。すなわち、太陽電池モジュールのケラバ側の横に取り合いされる瓦の棟側部分に弾性防水材445を取り付けるようにする。このように瓦8dには、次の瓦、または他の太陽電池モジュールがのる部分に相当する棟側部分に弾性防水材445が取り付けられるので、瓦8dと次の瓦または太陽電池モジュールを弾性に接觸させることができ、瓦間または瓦と太陽電池モジュールのがたつき(段差)を生じさせないようにすることができる。また、弾性防水材445を取り付ける

り付けることにより、隙間が生じなくなるので防水性能を向上することもできる。また、太陽電池モジュールを瓦と同じ防水構造にしているので、雨水は、瓦との重なり部分では太陽電池モジュールのフレーム2を流れるようになっている。

【0029】図7(b)は、図6のY部を拡大した図であり、太陽電池モジュール1bと太陽電池モジュール1dのケラバ側接合部分を示している。図7(b)に示したように、太陽電池モジュール1cのフレーム2の底面部27は、横に並べて接合される太陽電池モジュール1dの側面部28および側面部28に形成された係部28aと接するように固定される。このとき、太陽電池モジュール1cの底面部27に形成された突出部27a、27bは、太陽電池モジュール1eの水路防止部29と直角をなすように形成された突出部29b、29cとかみ合わされるようになっている。すなわち、太陽電池モジュール1bのフレーム2の底面部27に形成された突出部27aは、横に接合される太陽電池モジュール1dの水路防止部29に形成された突出部29cと突出部29bの間にに入るよう、また、太陽電池モジュール1cの突出部27aは、太陽電池モジュール1dの側面部28、突出部28a、28bおよび水路防止部29に囲まれるようになっている。太陽電池モジュール1dの隙間261(図2(a)参照)に溜まつた雨水は、隙間290および隙間291へと流れ出るようになっている。これにより、棟側の太陽電池モジュールから軒先側に取り合はれた別の太陽電池モジュールのフレーム2へと雨水を流していくようになっている。

【0030】このように、フレーム2の短辺側の底面部27、28に各突出部27a、27b、28aおよび水路防止部29に各突出部29a、29b、29cを形成したことにより、太陽電池モジュール同士を横に並べて接合する際、Y部側からの雨水の水路が狭くなり、水路防止部29および瓦の下に入り込む水量を抑えることができ、ルーフィング92の面に雨水が流れ出すのを防ぐことができる。また、図7(b)に示すように、太陽電池モジュール1dの固定金具3は、長手方向(フレーム2の長辺)より少し短い長さとなっているので、太陽電池モジュール1eの水路防止部29の端部である突出部29aと、固定金具3の端部との間に隙間71(点線で囲まれた部分)が形成される。この隙間71を利用することにより、瓦棟9に切り込みを入れることなく、太陽電池モジュール1eの裏面に設置されている端子ボックス6からの配線7を屋根の上下(棟側および軒先側方向)に通すことができる。

【0031】図7(c)は、図6のZ部を拡大した図であり、太陽電池モジュール1cと瓦8eのケラバ側接合部を示した図である。なお、Z部では、図7(a)と同様に、瓦8e側の固定金具4が外されている太陽電池モジュール1eの場合(図6の黒矢印部分参照)について

示してある。図7 (c) に示したように、瓦8のの棟側部分に弹性防水材445を取り付ける。すなわち、太陽電池モジュール1のケラバ側の横に取り合いされる瓦の棟側部分に弹性防水材445を取り付けるようにする。このように瓦8には次の瓦、または他の太陽電池モジュールがのる部分に相当する棟側部分に弹性防水材445が取り付けられるので、瓦8と次の瓦または太陽電池モジュールを弹性的に接触させることができ、瓦間または瓦と太陽電池モジュールのがたつき(段差)を生じさせないようにすることができる。また、弹性防水材445を取り付けることにより隙間が生じなくなるので、防水性能を向上することもできる。フレーム2の底面部27には突出部27a、27bが形成されているので、瓦のといい部分においても雨水の水路が狭くなり、瓦のといい流れ込む雨水をおさえることができ、ルーフイング92面に雨水が流れ込むのを防ぐことができる。

【0032】本実施の形態の太陽電池モジュール1において、フレーム2および固定金具3、4の材質を耐酸アルミニウム合金として説明してきたが、これに限られるものではなく、その他の鋳びににくい金属でもよい。また、鋳びににくいステンレスや金属によって形成されているので、太陽電池モジュール1内の太陽電池5の交換をしても、フレーム2および固定金具3、4は何回も使用することができる。また、太陽電池モジュール1のフレーム2および固定金具3、4の厚さも薄い箔から肉厚まで適宜変更が可能なものとする。さらに、フレーム2および固定金具3、4の長さも取り合いをする瓦とのサイズに応じさせたりして適宜変更が可能なものとする。また、本実施の形態の太陽電池モジュール1のフレーム2の長辺一端側上面部25上に設けられる弹性防水材44をエアバッキンとして説明してきたが、これに限られるものではなく、防水機能を有し、瓦や別の太陽電池モジュールと弹性的に取り合いが行える弹性材であればよいとする。

【0033】また、本実施の形態の太陽電池モジュール1において、フレーム2に形成されている各立ち下がり部、突出部、立ち上がり部、側面部、上面部、底部など、長さは適宜変更が可能なものとする。また、本実施の形態の太陽電池モジュール1において、第1の固定手段である固定金具3および嵌合手段であるフレーム2の長辺一端側の棟側底部24、立ち下がり部22および折曲部23により形成され、軸先側が開放した空間部234の形状を断面がYの字形状として説明したが、これ

に限られるものではなく、三角形、直方形、横円というように任意の形状とすることができます。また、本実施の形態の太陽電池モジュール1において、第2の固定手段である固定金具4の形状は、断面がL字形状として説明したが、これに限られるものではなく、接合部41と立ち上がり部42が鋸角をなすようなV字形状としてもよい。また、本実施の形態の太陽電池モジュール1において、フレーム2の短辺一端側の底面部27には突出部27a、27bが、短辺一端側の側面部28には係止部28aが、水路防止部29には突出部29a、29b、29cが形成されているものとして説明したが、底面部27、側面部28および水路防止部29に形成される突出部や係止部の数はこれに限られるものではなく、防水効果やフレーム2の短辺の長さなどに応じて増減することができる。

【0034】

【発明の効果】本発明の瓦と取り合いのできる太陽電池によると、屋根材としての施工、瓦との取り合いおよび一枚交換が容易であり、防水性に優れた太陽電池モジュールを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施の形態に係る太陽電池モジュールを示した図である。

【図2】本実施の形態に係る太陽電池モジュールのC-C'縦断面およびD-D'横断面を示した図である。

【図3】本実施の形態の太陽電池モジュールを設置した屋根を示した図である。

【図4】本実施の形態の太陽電池モジュールを設置した屋根のE-E'縦断面を示した図である。

【図5】屋根のE-E'縦断面のS部、T部、U部を拡大した図である。

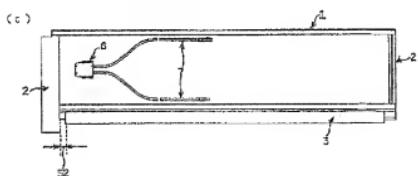
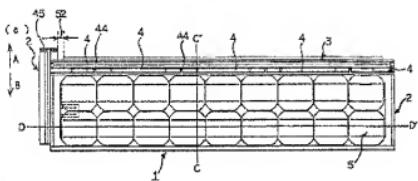
【図6】本実施の形態の太陽電池モジュールを設置した屋根のF-F'横断面を示した図である。

【図7】屋根のF-F'縦断面のX部、Y部、Z部を拡大した図である。

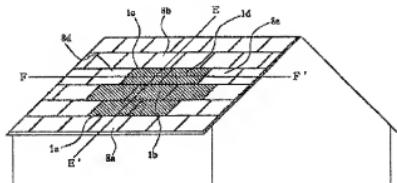
【符号の説明】

1	太陽電池モジュール
2	フレーム
3、4	固定金具
5	太陽電池
6	端子ボックス
7	配線

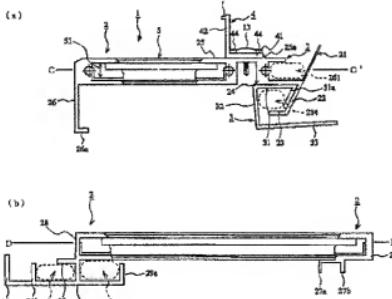
[图 1]



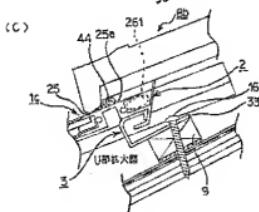
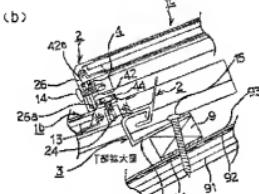
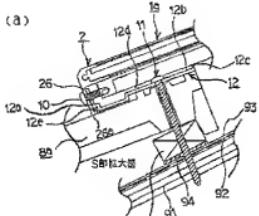
[图3]



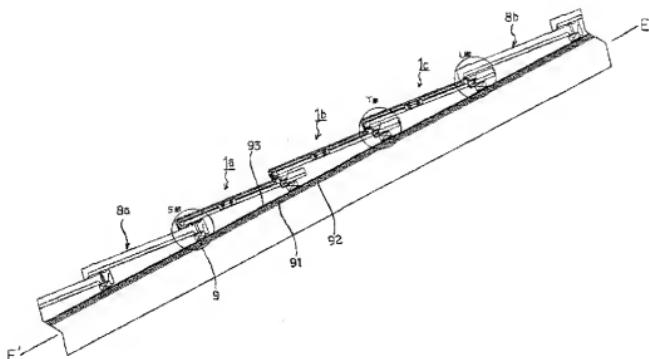
[図2]



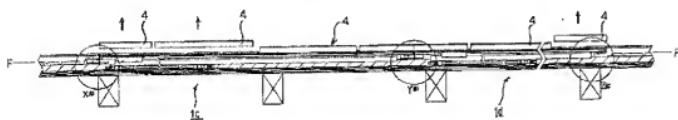
〔圖 5〕



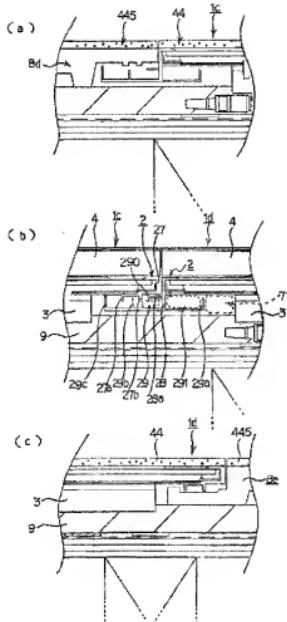
【図4】



【図6】



【図7】



フロントページの続き

(72)発明者 若林 賢吾

東京都新宿区西新宿1-24-1 エステッ

ク情報ビル19F 株式会社エム・エス・ケ
イ内

Fターム(参考) 2E108 KK04 LL02 MM01 NN07

5F051 BA03 JA08 JA09